

# 感染・腫瘍免疫系

M-04-01-L

## オーガナイザー

臨床感染制御学 小 泉 祐 介  
第二外科 尾 島 敏 康

## I 授業の目的

感染症が疑われる患者が来院した際、適切な判断・治療を行うためには、細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症などに対する基礎的知識を修得するとともに、各種検査法の臨床的意味付けを理解し適切な薬物治療ができるよう学習する必要がある。

また、感染症が惹起した病因を起炎菌側のみならず、宿主免疫能の側からも思考するよう訓練し、宿主免疫の抑制機序を基礎的に理解し、至適な治療法を確立する一助とする。

さらに、免疫学的異常を細胞レベルおよび遺伝子レベルで理解し、癌治療における応用を修得する。

## II 到達目標

1. 感染を含む侵襲によりサイトカイン血症に進展する機序が理解できる。
2. 世界的視点から見た伝染性感染症の診断と治療を理解できる。
3. 細菌感染症の治療について理解し、述べることができる。
4. ウイルス感染症の診断と治療をフローチャートで説明できる。
5. 外科侵襲によるサイトカインの変動と術後病態との関連について理解する。
6. 外科手術を周術期管理の立場から考察し、術後感染症に対する発症阻止薬の選択と投与について理論的に説明できる。
7. 病院感染症の感染経路、起因菌、対策を述べるができる。
8. 消化器系感染性疾患の診断と治療について述べるができる。
9. 肺結核の診断法と標準治療を述べるができる。
10. 非結核抗酸菌症と主な肺真菌症の診断と治療について述べるができる。
11. 腫瘍学の概念を理解し、がんの生物学とその治療への応用について概略が説明できる。
12. 癌の分子標的治療を理解できる。
13. 癌に対する外科治療、化学療法・免疫療法を集学的に理解できる。
14. 大規模災害による自然環境の変化や避難所等の特殊な生活環境で続発する感染性疾患の病態・感染対策・予防的対応について理解できる。

## III 講義項目と担当者

### (1) 感染症

#### ① 感染症総論

- |                     |         |    |
|---------------------|---------|----|
| 1. 生体防御・外科侵襲とサイトカイン | 第二外科    | 中森 |
| 2. 細菌感染症の治療         | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 3. ウイルス感染症 診断と治療    | 臨床感染制御学 | 小泉 |

#### ② 感染症各論

- |                 |         |    |
|-----------------|---------|----|
| 1. 外科・周術期感染症    | 第二外科    | 瀧藤 |
| 2. 消化器系感染性疾患    | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 3. 肺結核          | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 4. 肺真菌症と非結核抗酸菌症 | 臨床感染制御学 | 小泉 |
| 5. 災害と感染症（黒潮感染） | 臨床感染制御学 | 小泉 |

### (2) 免疫

- |             |      |    |
|-------------|------|----|
| 1. 癌の分子標的治療 | 第二外科 | 尾島 |
| 2. 集学的治療    | 第二外科 | 廣野 |
| 3. 癌免疫療法    | 第二外科 | 横山 |



# 講義日程表

感染・腫瘍免疫系

No.	月日	曜日	時限	項 目	担 当 科	担当
1	R5.9.15	(金)	4	外科・周術期感染症	第二外科	瀧藤
2	R5.9.15	(金)	5	細菌感染症の治療	臨床感染制御学	小泉
3	R5.11.20	(月)	2	ウイルス感染症 診断と治療	臨床感染制御学	小泉
4	R5.11.21	(火)	4	消化器系感染性疾患	臨床感染制御学	小泉
5	R5.11.21	(火)	5	癌の分子標的薬	第二外科	尾島
6	R5.11.22	(水)	1	集学的治療	第二外科	廣野
7	R5.11.22	(水)	2	癌免疫療法	第二外科	横山
8	R5.11.24	(金)	2	生体防御・外科侵襲とサイトカイン	第二外科	中森
9	R5.11.24	(金)	3	肺結核	臨床感染制御学	小泉
10	R5.11.27	(月)	2	非結核性抗酸菌症と肺真菌症	臨床感染制御学	小泉
11	R5.12.1	(金)	1	黒潮・感染	臨床感染制御学	小泉
12	R5.12.1	(金)	2	感染制御 I	臨床感染制御学	小泉
13	R5.12.1	(金)	3	感染制御 II	臨床感染制御学	小泉